

# みんなで考えよう、公共施設のあり方ワークショップ通信

特別編集号

令和元年11月30日発行

相模原市では、今後、人口減少や少子高齢化などが進む中、老朽化した公共施設への対応が大きな課題となっています。

そこで、「みんなで考える」をテーマに、限られた財源の中で、これからの相模原市らしい公共施設のあり方を考え、その実現に向けたアイデアや視点を提案してもらうためのワークショップを開催（全4回）することとしました。

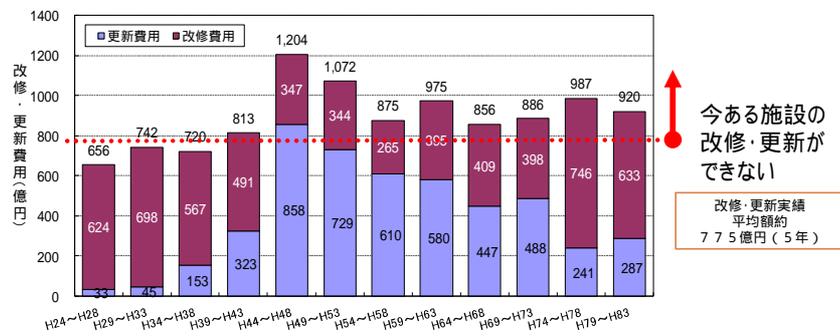
ワークショップの様子を、市民の皆さんにも知ってもらうため、「みんなで考えよう、公共施設のあり方ワークショップ通信」を発行しています。

今回は、これまでのダイジェスト版として、特別編集号を発行します。

## Q. 相模原市における公共施設マネジメントの取組を知っていますか？

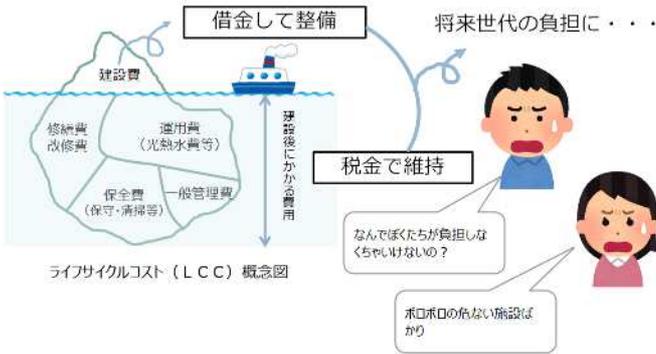
令和元年度市政に関する世論調査では、「知らない」と答えた人が79.8%でした。

## つくったモノを維持することが難しい時代に

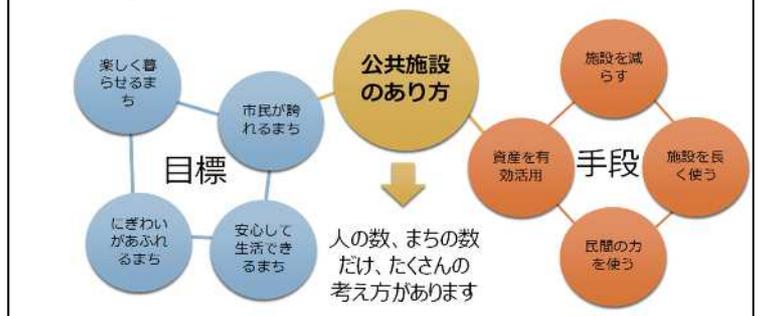


出典：相模原市公共施設白書（平成24年3月）

## つくった施設は将来の負担



## 公共施設マネジメントの取組≠サービス低下 = 目指すまちの姿、まちが生き残るための手段



市だけで考えた答えが最適？市民みんなで、公共施設のあり方を考える場が必要では？

**そうだ、ワークショップを開催してみよう！**

本村市長からのあいさつ【9/21第2回ワークショップにて】



公共施設の老朽化対策については、施設の再編・再整備と長寿命化を一体的に進めていく必要があると考えており、これまで市民をはじめ多くの皆さまにご利用いただいた公共施設を、次の世代にどのように引き継いでいけるかが、相模原市の未来にとって大切です。

これからの市政は、市民との対話により進め、各区の特性を生かしつつ、本市に愛着と誇りを持ってもらえるよう、シビックプライドを醸成していきたいと考えています。本ワークにおける皆さまの検討成果を楽しみにしています！

## 8月24日(土)第1回ワークショップ(参加者:55名)

第1回ワークショップでは、「思い出そう! 公共施設」をテーマに、公共施設の現状や課題について、市から説明したのち、二つのワークを行いました。



企画部長からのあいさつ

**ワーク1 公共施設を思い出そう**  
生活の中で「使っている施設」と「施設での活動」を付せんに書き出してみました。



意見を書いた付せんを模造紙に貼り、お互いがどのような施設で、どのような活動をしているかを知りました。

**ワーク2 公共施設って何だろう?**  
施設と活動を思い出してみた中で、施設と活動のつながりについて、気が付いたことや感じたことを話し合いました。

自分以外の人の活動や施設の使い方を知り、考えることで、今まで気が付かなかったことが見えたり、改めて大切なことを思い出したりしました。



ワークの成果を、グループごとに発表してもらいました。



### 主な意見

(ホームページにはすべての意見を掲載します)

インターネットを有効に使う  
交通の便や圏域が大切  
生活・手続きのために必要な施設  
夏・雨の日はこどもセンター  
外国人の居場所と交流も大切  
建物でなくても活動できる  
公民館は、地域住民の集いの場  
利用ルールの緩和が必要  
学校のスペースを有効利用

### 讃岐先生からのコメント

相模原市は広く、公共施設と交通アクセスを一体的に考えることの大切さを感じることが出来ました。そして、そうした課題の解消策の一つとして、たとえば施設に行かなくてもサービスを受けられるというITを意識した発想など、既成概念にとらわれないアイデアも出ました。

公共施設は、単純にお金を投じるだけではなく、市民の皆さんの協力や理解のもとで「ちょっと使いやすいとする」ための工夫を施すことも大切です。これからどのようなアイデアが出てくるのか、次回以降のワークも楽しみです。

## 9月21日(土)第2回ワークショップ(参加者:52名 傍聴者:1名)

第2回ワークショップでは、第1回で話し合った、公共施設と活動の関係を踏まえ、「どうしたらよい?公共施設」をテーマに、公共施設の良いところや、改善したほうがよいところ、公共施設をより良くするためのアイデアなどについて話し合いを行いました。

### ワーク1 ここがイネ!ここがイマイチ、相模原市の公共施設

相模原市の公共施設の良いところ、改善したほうがよいところについて話し合いました。

### ワーク2 魅力ある公共施設にするためのアイデアを考える

今ある公共施設の良いところをより伸ばし、良くないところを改善するためのアイデアを話し合いました。



ワークの成果について、各グループの一押しアイデア3つを中心に発表してもらいました。

	緑区	中央区	南区
グループ1	・マイナンバーとの連携(カードの一元化、ポイント付与等)	・SNSやホームページ等による発信の方法を広げる	・公共施設情報に関するホームページを見やすく改善
	・施設の多目的化、複合施設	・インターネットを活用した予約システムの導入など	・親しみやすい施設名や利用度ランキングなどによる愛着づくり
	・SNSやアプリによる情報発信	・企業力(場所、業務委託等)を頼って窓口サービスを提供	・施設間を循環するコミュニティバスやシャトルバスの導入
グループ2	・施設のルールを緩和し、もっと簡単に利用しやすくする	・乗合いタクシー、民間委託などによる交通網の整備	・防災ベンチの設置等による施設の多機能化(平時と非常時)
	・子どもと高齢者が交流できるような施設をつくる	・予約なしで誰もが利用できる、交流の場(部屋)をつくる	・QRコードを活用して、情報にアクセスしやすくする
	・分散している施設を地域コミュニティの拠点となる場所に集約・複合化	・コミュニティの中の人づくりと相互コミュニケーションの取り方の工夫	・フロアごと、曜日や時間で区切り、一つの施設を多目的に利用
グループ3	・広報の改善(利用マップ、ひばり放送、QRコード等)	・公共施設を経由する循環バスの導入	・高齢者、子育て世代等が使いやすい間取り・使い方に改善
	・各区に目玉となる複合施設を民間と協力して整備	・個人が利用しやすい予約・受付方法への変更	・利用料金の見直し(減額制度の導入)
	・人材発掘・活用・コーディネートによるサポート体制の充実	・使われていない小規模公園を有効活用し、公園での活動を増やす	・利用者と運営者の相互理解を深める



「情報発信(PR)の改善」「交通とセットで考える」「地域の力や民間企業との連携」が、これからの持続可能性を考える上で大事というアイデアが多く出ていました。次回に向けては、このほかの意見やアイデアを含め、「自分だったらこうしたい・こうできる」という目線で考えてもらえると良いと思います。

讃岐先生からのコメント

### ワークショップの参加者ってどうやって選んだの?

今回のワークショップでは、より多くの市民の方に関心を持ってもらうため、市内在住で、16歳以上の方2,000名を無作為抽出し、参加の案内状を送付しました。また、一般公募による募集も行いました。その結果、59名の方から参加申込(うち2名は不参加)をいただき、お住まいの区を中心に、各区3グループ、合計9グループにわけ、ワークを行ってきました。



## 第3回ワークショップ（参加者：緑区14名、中央区14名、南区15名）

第3回ワークショップは、台風19号による影響が残る地域もある中での開催となりましたが、参加者のみなさまのご理解のもと、無事に終わることができました。

はじめに、讃岐先生より、ちょっとしたしつらえの工夫で魅力を高めている公共空間の事例や、施設の運営への地域の関わり方の事例を紹介してもらったのち、「かたちにしよう、公共施設」をテーマにワークを行いました。

ワークの前半は、これまでのワークの内容を振り返りながら、「自分事」として、これからの公共施設に求めるテーマを考え、コンセプトやアイデア、実現するために必要なことなどを話し合いました。

後半は、第4回のポスターセッションに向け、グループごとに、発表用ポスターのデザイン（素案）を作成しました。



各グループとも、楽しく、そして白熱した議論が行われ、時間が足りなかったという声も。

### <各グループで決めたテーマ>

	緑区（10/20開催）	中央区（10/26開催）	南区（10/27開催）
グループ 1	みんなが集まる緑区 ～もっと知りたい、伝えたい～	今日、どこ行く？今日、何する？ ふらっとたちよる相模原	じゃんじゃか 見える化 市民参加
グループ 2	つながる ～青野原コミュニティモール～	地域を育てる ホットな居場所	トイレで相模原を変える！
グループ 3	Let's Go!! 私の好きな場所 "みんなが乗れる自分の施設"	魅力発信さがみはら!!	みんなが気軽に 自由に集まろう!!



ワークの内容は、首都大学東京の小野さん（学生）に説明してもらいました。



グラフィックコーディングには、女子美術大学の山川さんと大石さん（学生）にご協力いただきました。

今回のワークショップは、首都大学東京の讃岐先生と学生の皆さんの協力をいただいています！



### 讃岐 亮 助教 プロフィール

首都大学東京 都市環境学部 助教  
専門は、都市計画学。  
これまで、多くの自治体において、公共施設の再編に関する計画策定などを支援。

公共性という言葉は、かつては「行政の活動」という意味合いが強かったと思いますし、今でもそれは大事なことのひとつです。しかしこれからは、「市民が共有する利益・財産」「誰もが拒まれない開かれた空間や情報」といった意味が、より大切になるはずですよ。

最終回(第4回)は、これまでに皆さんが育ててきた「より良い公共施設のあり方」の考えを、「自分事」として発表し合う場になります。開かれた場で、それぞれのアイデアを共有し、楽しい時間にしましょう！

